
僕のこと

大和昇介

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕のこと

【Nコード】

N1907BA

【作者名】

大和昇介

【あらすじ】

現代版徒然草のようなもの。

序文 並び 塾について

現代版徒然草だと思ってください。

思ったこと、考えたことを何となくで書いてゆきます。

たとえば塾なんてものも不思議なものだとつくづく感じます、塾側からしたら生徒は御客様であり指導するべき対象です。つまりお客様は神様！という公式が当てはまらないのです。塾は生徒に依存し生徒は塾に成績をゆだねる、何とも不思議な共生です。しかし此れは客を生徒でなく生徒の保護者とすれば解決する。そうしたら子供は親の意向で塾に来ていることになる。子供がかわいそうだ。

いずれにしても塾とは不思議なものである。

政治の疑問

何故だろう？

つくづく疑問を覚える。

明治時代にできていたことが今は出来ていない？どうなっているんだ。

もちろん自分の事ではない、日本政府のことだ。

明治時代は海外に留学生を派遣して海外の技術、政策などを学んで日本に応用してきた。これは誰もが知っている事実である。

いまの日本政府は議員が政争に明け暮れていて何も目に見える成果がない。これも誰もが知っている事実である。

なぜ日本は国会でくだらないことばかりやっているのであろう？改革案のアイディアなら素人の僕にでも出てくる、まして国民を代表してアイディアを出すことでお金をもらっている、政策のプロにアイディアが浮かばないのはおかしい。

もっと言えばアイディアなんてそこらへんに転がっている。

ただ転がっているだけではない、有用性が証明されていたり、リスクが判明していたりする優れたものである。これを使わないという法はない、それこそは海外の実例である。

今こそ再び海外に学ぶべきなのである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1907ba/>

僕のこと

2012年1月5日21時49分発行